

## 今月の表紙「キレハノブドウ」

切葉野葡萄という字の通り、ノブドウに比べ葉に深い切れ込みがあるのが特徴です。山地や野原に生え、夏に直径3ミリほどの小さな花が多数開きます。果実は食べられませんが、緑→紫→碧と彩りが変化してとてもきれいです。

## Contents

- 01 巻頭言  
稲野和利「金融リテラシーの問題」
- 02 特集  
2009年度(第24回)  
経済同友会夏季セミナー(前編)
- 17 リレートーク  
後藤信夫「音楽の旅」
- 18 委員長インタビュー  
『骨太の方針』起草PT 細谷英二  
「経済対策としての需要追加型・  
財政出動のあり方」PT 前原金一  
農業改革委員会 数土文夫
- 21 経済同友最前線  
農業改革委員会 提言  
「直接支払い制度の導入で三位一体の  
コメ農業改革を」
- 23 新入会員紹介  
2009年7月24日現在の入退会者
- 24 同友会スケッチ  
2009年7月の記録と9月の予定
- 26 私の思い出写真館  
平田 正「熱き夢追いの日々」



副代表幹事  
内需拡大・経済成長戦略委員会 委員長

### 稲野 和利

野村アセットマネジメント  
取締役会長 代表執行役

## 金融リテラシーの問題

未公開株詐欺が後を絶たない。「上場間近」「値上がり確実」「貴方だけに特別に」などの甘言を弄して未公開株の購入を勧め(当該会社が実在・架空にかかわらず上場の予定自体が虚偽である)、払い込まれた資金を持ち逃げするというものである。つい最近でも、不特定多数の投資家から150億円を違法に収受したとされるグループが摘発されている。

投資名目による巨額詐欺も後を絶たない。最近の例では、沈没船から財宝を取り出すプロジェクトへの出資金名目で13,000人から540億円を集めたものや、フィリピンでのエビ養殖事業への投資名目で35,000人から約850億円を集金したもの、などがある。そこでは、「安全・確実・高利回り」「元本保証」といった言葉が頻繁に使用されるのが通例である。

このような詐欺の被害に遭った方々の心中を察するには余りあるが、何かが足りない、と感じるのは私だけではないであろう。自分だけにやってくるうまい儲け話など普通ないという「常識」の問題はさておいても、「金融リテラシー(金融における基本的な理解力)」が不足している、と私は感じる。例えば、「元本保証」という言葉である。多くの人には「元本保証」という言葉を聞いた瞬間に安心して思考停止になってしまう傾向がある。当然のことながら、重要なのは元本保証の有無ではなく、保証主体の財務的安定性である。資本金20万円の特別目的会社が300億円の社債の元本保証を謳っていたとしても、そこに意味はないということである。「元本保証の意味」「時間を味方につける(長期投資の意義)」「複利の効用」、この3点だけを正確に理解するだけでも金融リテラシーは格段に向上する。

「貯蓄から投資へ」という言葉がさまざまところで使われている。豊かで幸せな生活を実現する原資としての個人金融資産を、バランスよく効率的に運用していくことの必要性を訴えた言葉である。しかし、「金融リテラシー」の着実な普及なくしては、この言葉も画餅に終わってしまう虞もなしとはしない。物事には、迂遠なようでも正しい道というものがある。小さな努力の大きな集積が必要とされている。そんなことを考えながら、金融リテラシーの普及に些かでも貢献すべく、今月も大学での講義に出向く予定だ。